

# アメリカン ビュー



アメリカ大使館公式マガジン

2017 ISSUE 03



特集

ハガティ駐日米国大使着任

留学のなかで自分と向き合う

# 第30代駐日米国 ウィリアム・F・ハ

“日米の揺るぎない絆は、  
アジア太平洋地域の平和、  
繁栄および自由の礎”

— ウィリアム・ハガティ駐日米国大使  
2017年8月17日、成田空港にて



# 大使

# ガティが着任

ウィリアム・ハガティ大使は2017年8月17日、日本に到着し、8月31日に信任状を天皇陛下に奉呈しました。



大使に指名される以前は、トランプ大統領の政権移行チームの政治任用担当ディレクターを務めていました。それまでは、未公開株式投資会社ハガティ・ピーターソン・アンド・カンパニーの創業者の一人として、業務執行取締役を務めていました。他にも、上場企業3社の取締役や、メジャーリーグサッカーのフランチャイズ・チームのテネシー州ナッシュビル誘致を目指す委員会の共同創設者としての経験もあります。キャリアの出発点は、国際的な経営コンサルティング会社ボストン・コンサルティング・グループでの勤務であり、同社の職務で東京に3年間駐在しました。

民間部門での経歴に加え、ジョージ・H・W・ブッシュ大統領の競争力評議会に関わったり、テネシー州知事諮問委員会のメンバー、同州の経済地域開発局長を務めるなど、連邦および州政府での経験もあります。

1981年にバンダービルト大学で学士号、1984年に同大学法科大学院で法務博士号を取得しました。ボーイスカウトアメリカ連盟のために幅広く活動し、以前の日本滞在時には米国ボーイスカウト極東連盟の理事を務めました。家族はクリシー夫人と4人の子ども（ウィリアム、スティーブン、トラ、クリスティン）。





# ハガティ大使、日本に着任

## August 17 日本に到着

**成** 田空港では、ヤング首席公使夫妻と外務省担当官に出迎えられました。



## August 18 官邸で 安倍首相と 初会談

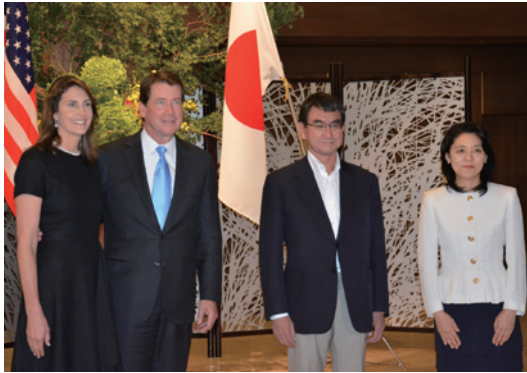
**会** 談では「安倍首相と共に、日米が直面するさまざまな問題に取り組みたい」と語りました。

## August 20 東京での 初めての週末

**東** 京に戻って初めての週末を、家族と共に美術館などを訪れて過ごしました。







August 22

## 河野外務大臣と 初顔合わせ

（ハ）ガティ大使夫  
妻は、外務省・  
飯倉公館で、河野外  
務大臣夫妻と昼食を  
共にしました。



August 26

## 家族で 鎌倉を訪問

（鶴）岡八幡宮に参拝  
し、高徳院の大仏  
を見学しました。



August 31

## 皇居にて 天皇陛下に 信任状を奉呈

（南）車寄で宮内庁  
の奥山爾朗式  
部副長にごあいさつ  
しました。



# 明治初期の米国の対日外交

## ジョン・A・ビンガムの12年間

John Armor Bingham

相良妃貴  
在日米国外交館報道室インタビュー



歴代大使の写真の中には、ビンガム公使の写真もある  
アメリカ大使館内に飾られた

ジョン・ビンガム。その名を知る人はあまり多くないでしょう。私も彼を知らない一人でした。ジョン・ビンガムは、駐日米国外交官として明治時代初期の日米外交に大きく貢献した政治家です。先日、東京女子大学にて、彼を研究している元米国外交官サム・キダー氏による講演会が開催されました。またその翌日には、米国外交館でキダー氏に直接お話を伺う機会を得ました。本稿では、キダー氏の話をもとに、ジョン・ビンガム駐日公使が日本で過ごした12年間の功績について考察します。

ジョン・A・ビンガム（John Armor Bingham、1815-1900年）は、幼少期をペンシルベニア州とオハイオ州の2つの小さな町で過ごしました。1854年にオハイオ州の下院議員に選出され、第16代米国外交官エーブラハム・リンカーンのアドバイザー役も務めました。一番の功績は米国外交法修正第14条を草稿したことです。南北戦争後に成立したこの条項には、市民の身分の広範な定義が盛り込まれており、現在にいたるまで人権擁護の重要な根拠となっています。1873年9月、

グラント大統領の命を受け駐日米国外交官として着任し、1885年7月までの約12年間、その責務を担いました。彼の12年間の任期は、現在までの歴代大使・公使の中で最長です。ビンガムの外交官としての功績は多くありますが、今回はそのうち2つを取り上げたいと思います。

### 米国外交館の移転、 外交拠点としての基盤構築

ビンガムが日本に着任した明治時代初期、米国外交館の名称は「米国外交館」でした。東京の米国外交館長の正式な肩書きに「大使」が使われるようになったのは20世紀初頭のことで、大使館や公使館は、ホスト国政府との外交拠点として重要な役割を担います。ビンガムの時代の公使館業務は主に以下の6つで、その多くが現在も行われています。

- ・日本政府と関係を構築すること
- ・東京での政治情勢をワシントンへ報告すること
- ・米国外交に利益をもたらす行動を取るよう、日本政府に働きかけること
- ・日本にある他国の大使館・公使館との関係を構築、維持すること
- ・日本に滞在する米国人の世話・監督をすること
- ・米国外交館の組織を運営すること

しかし、ビンガム公使が日本に到着した頃、米国公使館の機能は限られていました。前任の公使は横浜のホテル住まいで、東京に来て日本の政府関係者と会合を持つこともほとんどありませんでした。また、スタッフの数も不足していました。そこでビンガム公使は、現地スタッフを採用して職員を増やし、公使館を東京の築地へと移転させることで、公使館の体制を整えていったのです。

## 不平等条約の見直し

江戸時代末期、開国したばかりの日本は諸外国と条約を締結しましたが、概して日本に不利で屈辱的な不平等条約でした。例えば、治外法権や関税自主権の問題です。治外法権により、外国人居留地での外国人による犯罪行為に対し、日本政府には裁判権がありませんでした。また、関税自主権がなかったことで、日本は関税を自ら決められず、明治政府の深刻な財政問題の原因となっていました。

ビンガム公使はこうした不平等条約の見直しを推進しました。不平等条約改正を支持していた米国人宣教師グループから影響を受けたこと、また、関税自主権がないままでは明治政府が弱体化し、アジアに進出しようとするヨーロッパ諸国、特にイギリスの標的になると懸念したことが理由でした。米国政府は、日本が西欧列強に支配されることを望んでいなかったのです。

ビンガム公使の在任中に不平等条約が改正されることはありませんでしたが、彼が行った米国公使館の基盤構築、そして不平等条約見直しの推進は、現在まで至る日米外交の重要な起点となりました。窓口を整えたことで日米外交が進展し、後年の条約改正への道筋をつけました。グラント大統領が、当時米国でも大物とされていた政治家を公使として日本に派遣したことからも、米国が日本との関係を重要に思っていたことが分かります。

講演の翌日、キダー氏に話を伺いました。ビンガムに興味を持ったきっかけについてキダー氏は、ビンガムが当時、政治的に重要な意味を持つ存在

だったこと、そして彼の出生地が自分の現在の住まいに近かったことを知ったからだと言いました。彼の存在がキ



東京女子大学で講演するキダー氏

ダー氏に与えた影響は何かと尋ねると、次のように答えてくれました。「人々は歴史を学ぶとき、戦争や悲惨な出来事などに意識が向きがちです。しかし、歴史の陰には、彼のように名前も知られていない功労者も存在します。私が彼に興味を持ったのは、社会的名声のためでなく、自分の価値観に従って何かを成し遂げようとしたからで、そのような人々は他にもたくさんいると思います」。歴史をさまざまな角度から見るのが大切だということをビンガムから学んだ、ということだと思います。

25年以上にわたり、外交官としてアジアを中心に活躍してきたキダー氏からは、日本の若者向け「Do everything you can!」というメッセージをいただきました。「できることは何でもしてください。本を読んだり、さまざまなものを見て、いろいろなところへ行き、たくさん勉強してください。日本は素晴らしい国ですが、時には快適な場所から出て行くことも必要です。明治時代のリーダーたちは、この点を理解していました」

私は今回、ジョン・ビンガムを初めて知りましたが、彼の功績は、現在の友好的な日米関係の礎のひとつになったと感じました。キダー氏の言うとおり、歴史をもっと多面的に知ろうとすれば、違う発見が生まれるでしょう。これは私たちにとって、とても価値のあることだとあらためて思いました。



聖路加国際病院に残るアメリカ公使館跡石標。かつてこの地に公使館があったことが刻まれている



# EAST SIDE SUSHI

## 映画「イーストサイド・寿司」監督に聞く、 自分に“No”と言わないことの大切さ

2017年5月22日、アメリカンセンター Japan において、映画上映・トークイベントが開催されました。これは、南カリフォルニア大学と国務省が共同で運営し、米国内外の賞を受賞した独立系のフィクションやドキュメンタリー映画を紹介するプロジェクト「アメリカン・フィルム・ショーケース」(AFS)の一環で行われたイベントです。

今回上映した映画はアンソニー・ルセロ氏脚本・監督の「イーストサイド・寿司」。メキシコ移民のシングルマザー、フォアナが文化や伝統の壁を乗り越え、すし職人を目指して奮闘する映画です。ルセロ監督は、カリフォルニア州オークランド生まれ。サンフランシスコ州立大学映画学科を卒業後、「スターウォーズ」「パイレーツ・オブ・カリビアン」「ハリ・ポッター」など超大作映画の特殊効果を担当しました。上映後のトークイベントでは、ルセロ監督ら3人のパネリストが、映画の内容や映画製作の苦労話など



Blue Sun Pictures, LLC

について活発に意見交換し、映画を見た参加者からの質問に答えました。

映画「イーストサイド・寿司」は、フルーツの移動販売で生計を立てる主人公フォアナが、強盗に遭ったことをきっかけに移動販売



アンソニー・ルセロ監督  
Photo: Blue Sun Pictures, LLC

の仕事をやめ、日本食レストランで働き始めるところから始まります。最初はキッチンで皿洗いや下ごしらえを担当していましたが、料理人としての腕を見込まれ、和食の調理や、最終的にはすし作りまで任せられるようになります。次第にすし職人になるという夢を膨らませるフォアナでしたが、アジア系でなくメキシコ系、男性でなく女性であるという人種とジェンダーの2つの壁が立ちほだかります。それでも夢を諦めきれないフォアナは一人で努力を続け、すし職人コンテストで準優勝します。

この映画を製作したきっかけについて、ルセロ監督はアメリカン・ビューとのインタビューで、レストランのキッチンで緑の下の力持ちとして働いているラテン系の移民にスポットライトを当てたかったからだ、と語りました。監督のこの思いは、すし職人になるチャンスさえ与えられない主人公フォアナのこのせりふに表れています。「どんな名店も、ラテン系のスタッフが支えている。調理場で、人目につかず、料理を作り、裏方として頑張っている」。当初、主人公は男性にするつもりでしたが、ラテン系の女性が、アジア系男性以外には門戸が閉ざされているすし職人を目指す

物語にすれば、文化とジェンダーという2つの面での「衝突」を描けると考えたそうです。

2つの障害に直面するフォアナを主人公にしたこの映画で伝えたかったことは、「困難を克服し、やりぬくことの大切さ」だと、ルセロ監督は言います。困難を克服するにはどうすればいいかと尋ねると、「自分自身に“No”と言わないこと」という答えが返ってきました。実はこの映画の製作にあたり、監督自身も困難に直面しました。まず、必要な資金が集まりませんでした。すし職人になろうとするメキシコ系の女性の映画がヒットするとは誰も考えなかったからで、結局、監督が私財を投じることになりました。また著名な俳優が出演していなかったため、数々の賞を受賞したにもかかわらず、映画の配給会社がなかなか決まりませんでした。アメリカの衛星・ケーブルテレビ局 HBO による放送権獲得をきっかけに、ソニーやサミュエル・ゴールドウィン・フィルムが配給権を取得したのですが、それまで非常に時間がかかりました。この間、ルセロ監督は自分を信じ、自分が書いた脚本を信じて、自分が本当にやりたいことをやり続けていたのです。

ルセロ監督は15年間、巨額の製作費を使う超大作映画の特殊効果の仕事に携わり、昼夜を問わず賢明に働いてきました。しかし、出来上がった作品の大半は、彼にとって満足のものではなかったそうです。何度も失望し、不満を言っていました、ある時こう思ったそうです。「不平を言うのをやめて、自分でいい映画を作ろう」。そして彼は、大きな会社での安定した職を捨て、脚本家・監督の道を選びました。「これこそ私がやりたかったことで、私にとって（安定した職よりも）重要だった」とルセロ監督は言います。

こうしたルセロ監督の信条は「イーストサイド・寿司」の主人公フォアナの行動と重なります。レストランのオーナーからすし職人として雇うことを拒否されたフォアナは、「私だってチャンスが欲しい。その権利は十分にある」と言って、安定した収入が約束

されていたにもかかわらず、店を辞めてしまいます。自分に“No”と言わなかったのです。そして自分だけの力ですし職人コンテストを勝ち抜きます。

「将来映画製作に携わりたいと考える日本の若者に何かアドバイスはありますか」という質問に対し、ルセロ監督は次のように答えてくれました。「自分が知っていることをテーマにしるとよく言われますが、私は自分が知らないことを題材に脚本を書きます。今回の映画では、すし職人やシングルマザーなど、私が十分に理解しているとはいえない登場人物について書きました。

これは書くというプロセスであると同時に、（知らないことを）リサーチをするプロセスでもあります。でもその方が面白いのです。違った意味での文化の架け橋だと思いませんか？ 例えば、イスラム教徒でない私がイスラム教徒について書くことは、私にとってイスラム文化を理解することです。異なる文化を理解する素晴らしい方法です」

ルセロ監督はこれまでに製作したどの映画でも、異なる文化の出会いを取り上げてきたそうです。彼が育ったオークランドや今住んでいるパークレーには、さまざまな文化圏の人々が暮らしており、「私にとっては、異なる文化を取り上げることが自然だったのです」。そして、今後製作する映画でも、何らかの形で文化の多様性を描いていくと抱負を語ってくれました。現在は新しいテレビシリーズの脚本に取り組んでいるそうです。ルセロ監督の「次の冒険」に期待しましょう。



「イーストサイド・寿司」の製作現場。中央がルセロ監督



## 鈴木 実桜

明治大学 情報コミュニケーション学部  
情報コミュニケーション学科

大学に入学して以来、私には「絶対に留学したい」という思いがありました。日本でどれほど英語の勉強をしても、それを話す環境、その言葉が生まれた環境に身を置かなければ身についたとは言えないと思ったからです。しかし、留学にはお金がかかります。家族に負担をかけたくなかった私は、自力で留学したいと考えていたので、費用はとても大きな壁でした。

そのような時に出会ったのが、TOMODACHI-Microsoft iLEAP Social Innovation and Leadership プログラムでした。このプログラムは短期間の留学でありながら、私の中の3つの思い（とにかく留学したい、誰も自分を知らない環境に身を置きたい、就職前に自分について考えたい）をかなえてくれるものでした。自分にとって得るものが大きいと感じた私は、エントリーすることになりました。

### ● TOMODACHI-Microsoft iLEAP Social Innovation and Leadership プログラムとは

私が参加したこのプログラムは、約1か月間ワシントン州シアトルに滞在し、セッションや非営利組織（NPO）でのグループプロジェクトなどを通して、自分のビジョンを構築し、リーダーシップ・スタイルを見出すことを目的としています。自分を知ることですらを見つめ直し、社会とのつながりを考えることを通し、どうすれば日本社会にインパクトを与えられるかを考えました。レクチャーでは“Who am I?”という問いかけを基本に、自分について振り返ったり、人とのコミュニケーションのとり方について考えました。さらにNPOでは、NPOというビジネス形態について学び、チームでプロジェクトに取り組むことで、社会で自分がどのような貢献をしたのかを考えました。このようなことを学



プログラム修了式

んだおかげで、社会に情性で出て行くのではなく、主体性を持って社会に参加できる力がついたと思います。

### ● シアトルという環境

シアトルの環境は、日本とは異なるものでした。まず、1つの市の中で区分けがされていることです。観光客で賑わう街もあればアートの街もあり、ビジネスの街もある。それは日本も同じです。しかし、その区分けとは別に、歴史を背景にチャイナタウンや日本人街が生まれ、移民のルーツによる住み分けが見られます。また富裕層が住む地域、逆に貧困層が住む地域、さらにはLGBT（性的少数者）の方たちが住む地域というのが明確に分かれていたのがとても印象的でした。

そしてもう1つ大きく異なることは、NPOが根付く環境です。これはシアトルに限ったことではないと思うのですが、NPOが身近にあることで、ソーシャルイノベーションに自分が携わっているという意識が私にも生まれました。私が見たNPOの1つに、レストラン事業を通してホームレスの人々の社会復帰を支援するFarestartという団体がありました。その職員の方が話していたことで印象的だったのは「プログラムを途中でやめてしまった人がいても、その人が戻ってくる日のために私たちは待ち続ける」という言葉でした。私は、ビジネスとして利益を生み出すだけでなく、ビジネスを通して人を変えるという考え方に驚きました。レストランで働きながら、まず自分の生活のために稼ぐ。そ



の中で人と協力することを学ぶ。そして調理の技術を学び、最後には料理人としてレストランで働く。一見するとアルバイトと変わらないように思えるかもしれませんが、しかし、ホームレスになった人が社会復帰の一步を踏み出すことは容易ではありません。真の意味で社会復帰してほしいからこそ待てる、その考えに私は感銘を受けました。

このようにシアトルでは、日本にはないビジネスを学ぶことができました。就職活動の前に、自分が社会で何をしたいのか、あらためて考えるきっかけになったと思います。留学先で暮らす中で日本と違うものを探し、それを自分がどう感じるかを考えることで、自分の価値観を身につけられるのも留学の魅力です。

レストランに飾られた  
支援する団体とシェフたちの  
写真



### ● 何事も自分を知るところから

このプログラムの中で重要なテーマの1つだったのが“Who am I?”です。周りに自分を知ることができない環境だからこそ、自分について考えることができました。どのような過程を経て今の自分ができたのかと聞かれ、すぐに答えられる人は少ないでしょう。何が契機となり、自分の考えや目標が生まれたのかを振り返ることは、日常の空間では難しいものです。一度立ち止まり、自分を見つめ直す時間をつくれることも、留学の魅力の1つです。目標だけでなく、自分の長所・短所を認識することもできます。そしてそれを他者に伝える勇気も持てます。

### ● 自分なりのリーダーシップ

このプログラムのテーマは、もちろん名前にある通りリーダーシップを学ぶことです。皆さんは

「リーダーシップ」という言葉を聞いて、どのようなものを思い浮かべますか？ おそらく、人の前に立ち、目標に向かって導いていく様子をイメージするのではないのでしょうか。しかし実はそれだけではありません。チームの成果のために自分に何ができるのかを見極め、力を発揮することがリーダーシップだと私は学びました。だからこそ、自分について知ることが重要です。自分の手持ちのカードを知ることで、戦い方が初めてわかるのです。自分に何ができて、何ができないのかを知るとは、可能性を切り捨てることではないと思います。お互いに補い合い、できることを生かすことがチームワークを高めることにつながり、さらに自身のリーダーシップを発揮することになると私は思います。

### ● Pay Back ではなく Pay Forward

このプログラムを通して学んで得た大切な言葉の1つに“Pay Forward”があります。私がシアトルで得た経験は、どれも周りの人から与えられたものでした。その与えられた経験に対して、私は何かお返しをしなければならない＝“Pay Back”しなければならない、と思っていました。しかし、返すことでは、社会の中でこの学びを生かすことはできません。ここで得た学びを次の人に伝えていく＝“Pay Forward”することが、社会を変えていくことにつながるのです。

私も、この経験を伝えることで、ソーシャルインベーションを起こす一人になりたいと思います。短期であろうが長期であろうが、留学で得られることは必ずあります。自分の行動次第です。日常とは違う環境だからこそ、自分を知ることができ、新しい可能性に気づけると私は思います。ぜひ、アメリカ留学に挑戦してみてください。



プログラム修了式

# 世界的な廃棄物処理の専門家が 若い女性に勧める 理系キャリアの道

eXXpedition 2014 で  
大西洋を横断した  
14人の女性たち

キャンシー・ルソー  
在日米国大使館報道室インターン



米国大使館は6月15日、ジョージア大学工学部准教授のジェナ・ジャンバック博士を招き講演会を開催しました。ジャンバック博士は、世界の廃棄物管理とプラスチックごみ汚染について専門に研究しており、プログラムには、環境問題の専門家から小学生まで、海洋ごみが及ぼす影響に深い関心を持つ幅広い層の人々が参加しました。ジャンバック博士は廃棄物管理の研究のほかに、環境問題に対する啓発や、若い女性の科学・技術・工学・数学 (STEM) 分野への進出を促す活動もしています。講演会に先立ち、アメリカン・ビューはジャンバック博士にお話を伺いました。

## ⇒「私のごみの専門家」

ジャンバック博士は、固形廃棄物問題と、こうした廃棄物が海に及ぼす影響の研究に献身的に取り組んできました。固形廃棄物管理で人間が関わる部分は、ジャンバック博士にとって身近な問題でした。「私は人間の行動の理由に常に関心を

持ってきました」と博士は言います。「私たちの選択、すなわち何を購入し、何を消費するかにより、発生する廃棄物が変わります」。博士は自分のことを「ごみの専門家」と呼びますが、本当は「人間の専門家なのです。なぜなら、この問題には人間が密接に関わっているからです。人間には、社会に変化をもたらす選択をする力が備わっています」

⇒世界中の若者に働きかける

科学の道に進むように若者に働きかけるために重要なのは「良き師」である、とジャンバック博士は言います。子どものころ最も影響を受けたのは、マデレイン・レングルの小説“A Wrinkle in Time”の架空の登場人物だったそうです。「物語の中に出てくる子どもたちのために、研究室で働く母親が実験用バーナーでシチューを作るのです。『母親と科学者を同時にこなすなんてすごい!』私はそう思いました」。これがきっかけで、博士も科学の道に進むと同時に、家庭も持とうと考えたそうです。

講演後の質疑応答では、一人の高校生が、廃棄物問題を若者に教えるにはどうすればいいか質問しました。博士は、現実の生活と関連付けられることも1つの方法だと提案しました。「最終的に廃棄物が周

りてくるように、若者に働きかけるために重要なのは「良き師」である、とジャンバック博士は言います。子どものころ最も影響を受けたのは、マデレイン・レングルの小説“A Wrinkle in Time”の架空の登場人物だったそうです。「物語の中に出てくる子どもたちのために、研究室で働く母親が実験用バーナーでシチューを作るのです。『母親と科学者を同時にこなすなんてすごい!』私はそう思いました」。これがきっかけで、博士も科学の道に進むと同時に、家庭も持とうと考えたそうです。

講演後の質疑応答では、一人の高校生が、廃棄物問題を若者に教えるにはどうすればいいか質問しました。博士は、現実の生活と関連付けられることも1つの方法だと提案しました。「最終的に廃棄物が周

海上でMDTを操作するジャンバック博士



りの環境に入り込むと、我々の生活に影響が及びます。その関係を示すのです」

### ⇒カギは根気

ジャンベック博士は、特に若い女性が STEM 分野に進むよう後押ししたいと考えており、女性がこの分野で働くことが普通になる日が来ることを望んでいます。インタビューでは、自分は粘り強さと根気のおかげで成功できたと説明しました。最初は工学と数学にてずりましたが、努力してやり通したそうです。

カリフォルニア大学バークレー校の学生からは、なぜ STEM 分野を専攻したのかという質問が出ました。博士の答えは「廃棄物管理に大いに興味を持ったからだ」というものでした。この分野のほとんどの会合で、女性の参加者は彼女1人だけですが、「存在感を示すこと」が大切だと言います。自分の取り組みを他の女性に見せることが、彼女たちを勇気付けるために重要であると強調しました。「誰もが困難に直面しますが、頑張れば乗り切ることができます」

### ⇒人に力を与える

ジャンベック博士の活動は、学生が STEM 分野に進むのを奨励するだけではありません。海洋ごみを追跡する携帯アプリ Marine Debris Tracker (MDT) の共同開発にも取り組みました。このアプリにより、世界中どこでも誰でも、ごみを見つけたときにはそれをレポートできます。拾ったごみについてもレポートできるので、アプリのユーザーが競ってごみを拾うことにもなります。またこのアプリは、世界各地の若者の教育に生かすこともできます。「アプリを使って一般市民も科学者になれる」と博士は言います。

### ⇒見えないものを見えるようにする

ジャンベック博士の人生は、2014年に13人の女性と共に大西洋横断の探検航海に出て大きく変わりました。全ては、アップル社が開催する「世界開発者会議」(WWDC)で流されたプロモーションビデオ「人生に不可欠なアプリ」(Apps We Can't Live Without)で、MDTが取り上げられたという知らせを受けたことから始まりました。人生に欠かすことのできないアプリについて語る人

たちを特集したビデオで、環境問題専門家のエミリー・ベン氏がMDTに言及したのです。

ジャンベック博士はベン氏に連絡を取りました。そして、環境問題の啓発のため、複数の女性グループが航海に出る「eXXpedition」プログラムに参加することになったのです。「まるで宇宙がドアを開け、そこに押し出されるような気持ちでした」と博士は言います。

ジャンベック博士は「eXXpedition」プログラムの使命「見えないものを見えるようにする」を熱心に支持しています。廃棄物問題に対する世の中の人たちの意識を高め、「よりクリーンで健康的な将来につながり、既存の枠にとらわれない行動するよう女性を促すことができるから」です。

### ⇒未来に向けた連携

今回の国務省主催のプログラムで、ジャンベック博士は日本だけでなくアジアの他の国々も訪問し、海のプラスチックごみを減らす方法について若者たちと意見交換しました。講演会では「eXXpedition」プログラムに参加したときの映像を見せ、一般の人々でもこの問題に関与できることを示しました。博士は、人が社会に変化をもたらしているのを目にすれば、他の人も刺激を受けて同じ行動を取ると信じており、ビデオを見た人たちの前向きな反応に満足していました。

ジャンベック博士は特に、インドネシアとフィリピンで固形廃棄物管理に関わる人の大半が女性であることに感銘を受けたそうです。「素晴らしいです。アメリカではあり得ないことで、私の周りで固形廃棄物管理に携わっている人は全て男性です」。女性のSTEM分野への進出を促進し、海洋ごみの問題について情報交換する機会を与えられたこのプログラムに、博士は感謝していました。



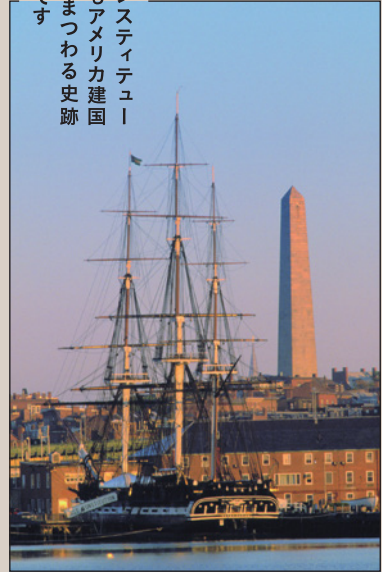
ノルウェーの首都オスロにある  
廃棄物分別施設を訪問した  
ジャンベック博士



# Massac

マサチューセッツ州とニューイングランドの旅

USSコンステティューション号もアメリカ建国の歴史にまつわる史跡のひとつです



by FayFoto, マサチューセッツ州政府観光局

写真提供：マサチューセッツ州政府観光局

フリーダムトレイルの起点で、アメリカ最古の公園のボストンコモン

ボストン・レッドソックスの本拠地フェンウェイパーク



写真提供：マサチューセッツ州政府観光局

**ア** メリカ北東部にはニューイングランドと呼ばれる地域があります。ニューイングランドは6州から成り、その中心的な州がマサチューセッツ州です。州都は学問の町として知られるボストンです。

アメリカの歴史は、このマサチューセッツ州でつくられたと言ってもよいでしょう。1620年、ボストン郊外のプリマスにイギリスから清教徒たちが上陸し、1775年にアメリカ独立戦争が始まりました。そして19世紀にはここからアメリカ産業革命が起こるなど、マサチューセッツ州は常に歴史の先頭を切ってきました。です

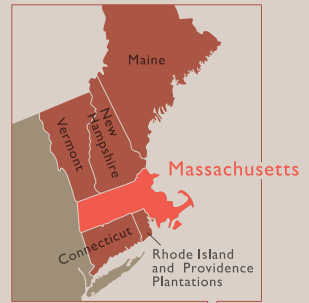
# Massachusetts

## アーリーアメリカンを感じる!!



by Tim Grafton/OTT  
マサチューセッツ州政庁観光課

フリーダムトレイル沿いにある名所のひとつ、マサチューセッツ州議事堂



から州内の至る場所で、その歴史を感じることができます。

州都ボストンでは、全長 4.2 キロメートルのフリーダムトレイルを歩いて16カ所の史跡巡りを楽しむことができます。ボストンはまた、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学等がある学問の都市としても有名です。ちなみにニューイングランドには、アイビーリーグの大学など他にも著名な大学が集結しています。

ボストンにはアメリカ3大美術館の1つ、ボストン美術館、ボストンシンフォニー等の芸術面での楽しみもあります。またスポーツも、ア

メリカ最古の球場フェンウェイパークをホームグラウンドにするメジャーリーグのレッドソックス、アメリカンフットボールのニューイングランド・ペトリオッツと強豪揃い。食に関しては新鮮な海の幸が満載で、なかでも近くのメイン州がアメリカでの収穫量の90%を占めるロブスターは絶品です。

ニューイングランドには四季折々の美しさがあり、春はガーデニングが楽しめる庭園見学、夏はケープコッド、マーサーズヴェニヤード島、ナンタケット島が東部の避暑地として有名です。冬は東部のスキーのメッカ、バーモント

# Massachusetts



おいしそうに  
ゆであがった  
ロブスター

by Legal Seafoods  
マサチューセッツ州政府観光局



秋のパークシャー

写真提供：マサチューセッツ州政府観光局

ノーマン  
ロックウェル  
美術館の雪景色



by Art Evgans、マサチューセッツ州政府観光局

州へ。スノーボードのバートン社はここにあり  
ます。

特にお奨めの時期は秋で、ニューイングラ  
ンドの紅葉を見るために世界中から旅行者が  
やって来ます。ボストンを起点に紅葉街道モ  
ホークトレイルを通り、マサチューセッツ州西  
部のパークシャーへ。バーモント州との州境  
のウィリアムスタウンには日本人建築家の安藤  
忠雄氏が設計したクラーク美術館があります。  
この美術館はフランス印象画を多く展示して  
おり、紅葉の森の中に白い建物が美しく映え  
ます。少し南下すると小さな美しい町ストック  
ブリッジに到着します。ここには1950年代のア  
メリカの生活を描いたノーマンロックウェル  
美術館があり、宿泊は、絵の中で描かれている17

73年に開業したホテル、レッドライオンインが  
お奨めです。

さらに北上しバーモント州ストウへ。ストウ  
にはあの名作「サウンド・オブ・ミュージック」  
でおなじみのトラップ家が経営する宿、トラ  
ップ・ファミリー・ロッジがあります。そのお隣  
りのニューハンプシャー州では、ホワイトマ  
ウンテンやカンカマスハイウエーが秋のドライ  
ブにお奨めです。

アメリカの歴史の原点を感じながら四季  
折々の美しさを楽しめるマサチューセッツ州、  
そしてニューイングランドの旅に出かけてみ  
ませんか。



# アメリカ人のように 話してみない？

シリーズ第10弾

Nautical Idioms

みんなは映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」見たことあるかな!? すごく面白いよね♪ 僕は特に、映画に出てくる「海賊船」が大好きなんだ!!! 「ジャック・スパロウみたいに海賊船に乗って、自由に航海してみたいな～」っていつも思ってるんだ。今回はそんな「船」や「航海」で使われていた言葉が元になったイディオムを紹介するよ☆ 今から紹介するイディオムを覚えて、映画を見たらもっと面白いかもね!

## Know the ropes

物事のやり方に通じていること



© AP Images

Example

If you have any problems getting accustomed to your new job, you should ask John for help. He really knows the ropes.

新しい仕事に慣れるのに苦労するようなら、ジョンに助けを求めたほうがいいですよ。彼はその仕事のやり方をよく知っていますから。

Explanation

そのまま日本語に訳すと、「そのロープを知っている」となって意味がわからないよね…。実は昔の帆船ではたくさんの種類のロープを使っていたんだ。だから、元々は「船にあるさまざまなロープの使い方を知っている」という意味だったんだ☆ でも、今では船のロープ以外でも使われるようになって、「物事のやり方に通じている」という意味になったんだ!

## Loose cannon

予測不可能な行動を取るため、  
放っておくと危険な人



© AP Images

Example

Could you help me keep an eye on my sister at the party? I don't want to leave her alone because she can be quite a loose cannon sometimes.



Example

すみませんが、パーティーで私の妹から目を離さないでいてくれませんか？  
彼女は時々、予測不可能な行動を取るから、放っておくととても危険なの。

Explanation

この表現には「cannon（大砲）」という言葉が入っててちょっと物騒だね。昔の戦艦には大砲が武器として積まれていて、ローラーの上に置かれ、頑丈なロープで船にしっかりと固定されていたんだ。元々は「ロープが外れてしまって、甲板の上で自由に転がって危険な大砲」を意味していたんだ。

# High and dry

困難な状況にあるのに頼りにできるものがないこと



© AP Images

Example

I was left high and dry when I got separated from my friends at the festival and then lost my wallet. Luckily I ran into my uncle and he gave me a ride home.

お祭りで友達とはぐれ、しかも財布を失くしてしまい、どうしようもない状況だったんです。そんなとき、幸運にも偶然、叔父に出くわし、家まで送ってもらいました。

Explanation

元々の航海用語としての意味は「船が完全に陸上に打ち上げられてしまって身動きがとれない状態」という意味だったんだ。そこから意味が転じて、「頼りがなく困難な状況」を指すようになったんだよ！他にも「(人)が見捨てられている」という意味でも使うことがあるよ。

# Hard and fast

厳格で、揺るぎないこと



Example

Our school has very few hard and fast rules. We don't have school uniforms so we can wear anything we like.

私たちの学校には、厳格な校則はほとんどありません。制服もないので、服装は自由です。

Explanation

航海用語としては「港に厳重に船が接岸されている」という意味で使っていたんだ。ここでの“hard”は「固く、しっかりと」という意味で、“fast”は「固定した」という意味だよ♪“fast”はよく使われる「速い」という意味ではないから注意してね！僕の学校は制服がなかったから、懂れるけどな～☆今度、コスプレでもしてみようかな！僕に合うサイズがあればいいのだけれど…。



## 在日米国大使館 広報・文化交流部 アメリカンビュー編集部よりお知らせ

### インターン募集

広報・文化交流部では、写真撮影や記事の執筆など広報活動のお手伝いをしてくれる学生インターンを募集します。応募締め切りなど詳細についてはこちらをご覧ください。

<http://amview.japan.usembassy.gov/about-amview>

### ストーリー募集

アメリカや日米関係にまつわる皆さんのストーリーを記事にしませんか。アメリカ留学旅行中の新たな発見、日米間の架け橋として活躍している人の紹介など、皆さんがシェアしたいお話をメールで編集部（TokyoAmView@state.gov）までお寄せください。英語でも日本語でも受け付けています。



アメリカン・ビューは在日米国大使館 広報・文化交流部が発行するマガジンです。アメリカの文化や社会を日本の皆さんに紹介し、日米関係にまつわる問題や出来事を考察しています。本誌の送付を希望される学校や団体は、使用目的を明記のうえ下記のメールアドレスまでご連絡ください。ご意見・ご要望もお待ちしております。下記のアドレスにお送りいただくか、ウェブ版のコメント欄から送信してください。

連絡先

在日米国大使館 広報・文化交流部報道室 アメリカン・ビュー編集部

〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5

E-mail TokyoAmView@state.gov

WEB <http://amview.japan.usembassy.gov>

\*本誌記載の記事に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解を表すものではありません。



編集・発行 / 在日米国大使館 広報・文化交流部 〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5  
 American View: [amview.japan.usembassy.gov](http://amview.japan.usembassy.gov) 在日米国大使館: [j.usembassy.gov/ja](http://j.usembassy.gov/ja) American Center Japan インター・留学情報: [AmericanCenterJapan.com](http://AmericanCenterJapan.com)  
 ウェブサイト版では、記事の全文、イベントなどのビデオや写真、その他の情報もご覧いただけます。本誌記載の記事に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解を表すものではありません。



## スポーツと BBQでつながる アメリカと日本

7月31日、アメリカ大使館外交官宿舎において、NPO法人・ハンズオン東京の企画協力の下、東京、東北、熊本の野球少年たちを招いて野球教室が開催されました。野球界のレジエント、ウォーレン・クロマティ氏、村上雅則氏、岩村明憲氏を迎え、野球の基礎について指導を受けたほか、中学生活へのアドバイスもいただきました。イベントにはアメリカ海兵隊員も参加し、子どもたちには海兵隊式トレーニングを伝授。ランチには海兵隊員が準備したアメリカンBBQを囲んで、親睦を深めました。